

東京下町 樹木探索

東京亜熱帯Ⅱ/ハイビスカス



東京に咲く南国の花「ハイビスカス」

7月28日、ようやく東京の梅雨(つゆ)が明けました。平年より1週間遅れの梅雨明けで、梅雨の期間は53日間、1951年以来4番目に長い梅雨だったということなのですが、利根川水系・荒川水系・多摩川水系を合わせた東京都のダムの貯水率は63%。昨年のこの時期の貯水率は95%でしたから、少ないには違いないのですが、それほど大騒ぎすることなさそうです。

今週末は[東京都知事選](#)で、自民党推薦「増田寛也」、元防衛大臣「小池百合子」、民進党推薦「鳥越俊太郎」で三すくみの戦いが繰り広げられています。

「三すくみ」とは、グウ・チョキ・パーのように三者の力関係が拮抗し絡みあっているさま。その由来はナメクジとカエルとヘビらしいのですが、誰がどれかについては控えさせて頂きたいと思います。

都知事選の前日は隅田川での花火大会、加えて今週はマーリンズ「[イチロー](#)」の3,000本安打達成を掛けた試合も続き、大リーグ野球からも目を離せません。そして翌週の8月6日はオリンピックの開会式で、7日からは夏の甲子園とスポーツ三昧の忙しい季節に入ります。

そんな東京の暑い夏に咲いていたのは「[ハイビスカス](#)」。思わず「えっ！」と声が漏れてしまいます。沖縄では「アカバナ」と呼び、まさに目の前にあったのも、真っ赤に燃えるハイビスカスの花でした。

この花の特徴はやや上向きに伸びる立派なおしべ。しかしながら朝咲いて夕方には萎んでしまうとてもはかない花でもありました。和名では「仏桑花」(ぶっそうげ)と言い、太陽と青い空の似合う南国の花ですが、見つけたのは東京都江戸川区内の第七方面交通機動隊があった場所。

この近くでは、[ブーゲンビリア](#)や[ジャカランダ](#)も元気に育っていて、東京の亜熱帯化は確実に進んでいます。



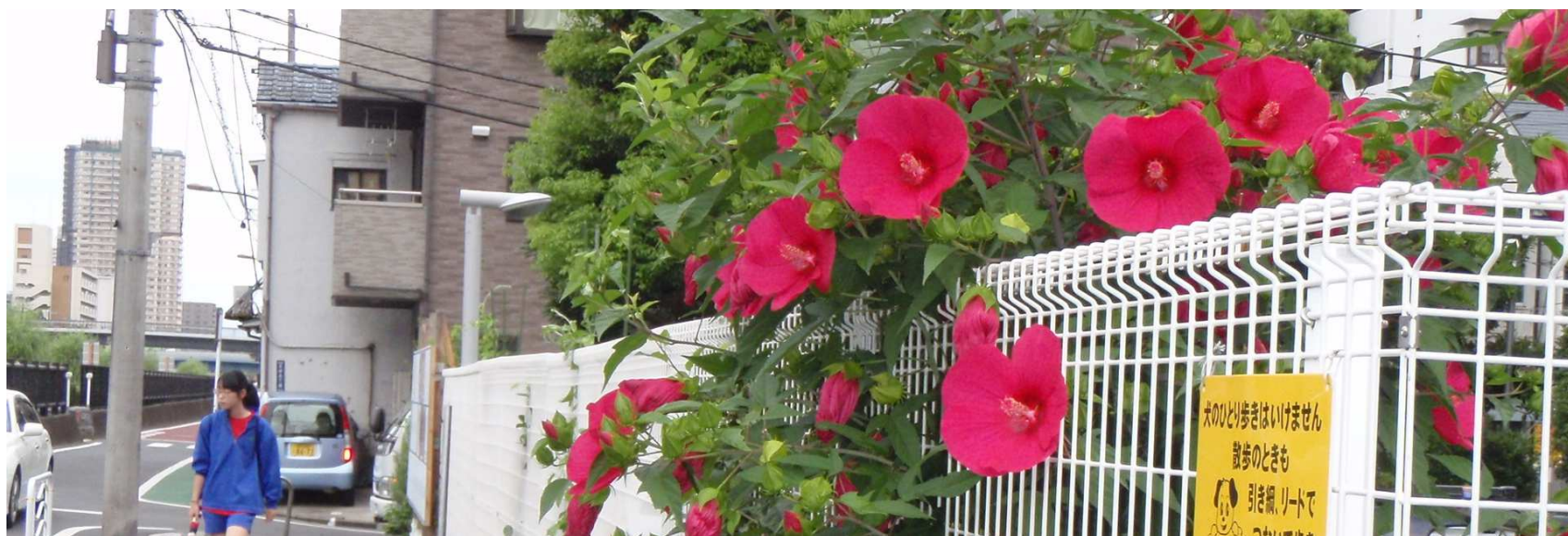
[東京都知事選](#)



[マーリンズ「イチロー」](#)

東京下町 樹木探索

タイタン・ビカスと酔芙蓉



「タイタン・ビカス」

小名木川沿いの歩道を自転車で走っていると、マンションのフェンス越しに見えて来たのは大きな真っ赤な花でした。近くに寄って見てみれば、立派なおしべはハイビスカスに似ています。

花の名前は「[タイタン・ビカス](#)」、アメリカフヨウとモミジアオイの交配選抜種です。三重県にある園芸植物生産会社「赤塚植物園」が開発した品種のようですが、ギリシャ神話に登場する「タンタン」のように巨大な花のハイビスカスという意味で名付けたのだろーと思います。

フヨウと聞いて親近感を覚える花が[酔芙蓉\(すいふよう\)](#)、純白だった花が夕方にはお酒でも嗜(たしな)んだようにピンク色に染てくることからこの名前になりました。夕方に色が変わる花は他にもあって、[オオハマボウ](#)もそのひとつ。沖縄名では「ゆうな」と言い、うつむき加減に下を向いて咲く姿はとても人気で、女の子の名前に好んで使われます。

酔芙蓉(すいふよう)や普通の[芙蓉\(ふよう\)](#)も「オオハマボウ」も、全てはハイビスカスの仲間。よく見かける「[ムクゲ](#)」も同じ仲間なのですが、こっそりおしべを覗(のぞ)いてみれば、同じ形をしていることが分ります。

ところで、美人を形容するのに「芙蓉の顔」(ふようのかんばせ)という言葉があります。デジタル大辞泉で調べてみれば、この場合の芙蓉とは蓮(はす)のこと、せつ々くなので次回には、蓮の花探しでもしてみようかと思っています。



[酔芙蓉\(すいふよう\)](#)



【昼】



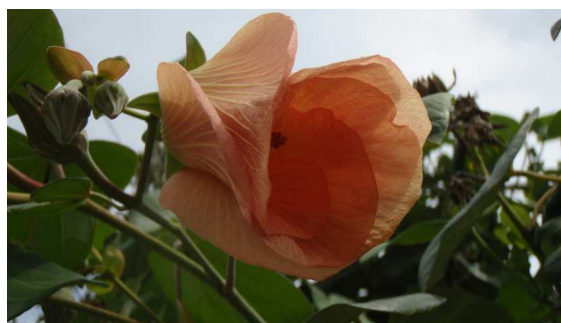
【夕方】



[オオハマボウ\(沖縄名:ゆうな\)](#)



【昼】



【夕方】